

小顔化で増えている子供の「叢生」

矯正治療を始める時期や方法は？

歯の健康相談

最近日本人に、あごの骨が小さくスマートな顔だちの「小顔化」が進んでいます。このため、歯の生える場所が不足して起こる「叢生（そうせい）」歯がでこぼこに生える状態の子供が増えているそう。親としては気になりますね。そこで、ほりい矯正歯科クリニックの堀井和宏さんに、子供の叢生治療について聞いてみました。

叢生の治療法は？

日本人の顔と頭は、幅のわりに奥行きが少ないため、あごも奥行きが少ない形になりやすいと言われています。さらに最近では食生活の変化もあって、あごが細長い子供が増加。それに伴い叢生の

症状が増えているようです。

叢生の治療は、永久歯の数を減らす、あごの骨を広げて永久歯が並びやすいようにする、など、歯の生えるスペースの不足をどう解消するかがポイントに。治療方法は症状により異なりますが、一般的

なのは、マルチブラケット装置と呼ばれる矯正器具の装着です。

叢生治療の

タイミングは？

歯の表面に装着する固定式なので、衛生面などの点から永久歯が生えそろうてから、できるだけ短期間で治療を終えるのが理想的。ただし、叢生が歯の生え変わりを妨げる可能性がある場合や、永久歯列期の治療期間を短縮したい場合、乳歯が残っている小学校低学年から治療することも。

また、歯とあごの大きさのバランスから永久歯の抜歯が必要と予想される場合も、あごの成長を助ける治療を早期から行うことがあります。

一方、あごが広がりにくいことが予想される場合や、あごが広がっても歯が大きくて永久歯の抜歯が避けられない場合、治療を行わずに乳歯の生え変わりを見守ります。写真の例は9歳の男子。前歯が著しくでこぼこに生え、歯列全体の幅が狭い傾向がありました。そこでまず、11カ月

かけて1期目の治療を実施。上下のあごを広がりやすくし、反対咬合でこぼこに生えた前歯をきれいに並べました。

その後、生え変わりの観察期間をほさみ、さらに2期目の治療に9カ月。1期と2期の合計1年8カ月間、歯を動かす器具を装着して治療を終えました。上あごの第二大臼歯を抜歯しましたが、抜いた跡に親知らずが生え、丈夫な28本のみ合わせになりました。

治療中のケアは？

治療法や治療に必要な期間は、患者によって差があるので、医師と納得いくまで相談することが大切。また治療中は、器具の手入れや装着中の歯磨きなど、子供に負担がかからないよう、親と一緒に頑張ってケアしてあげましょう。



▶治療開始前

▶同上

▶治療中の様子

▶治療終了後